

奈良競輪に“黄信号”

奈良市秋篠町にある県営競輪場（奈良競輪）の平成22年度の収支が前年度に続きマイナスとなり、2年の累計で約1億3千万円の赤字の見通しとなり、存続を危ぶむ声さえ出ている。県議会の一部からは「赤字が続くようなら廃止すべき」との強硬論も飛び出す中、県は「国が全国の競輪場を対象に進める抜本的対策を見いだしたい」と、その動向を注視している。

2年連続赤字の見通し

今月7日に開かれた場合、雇用問題など早稲議会の経済労働委員 期に取り組むべき課題会。「2年連続の赤字」となる見通しを県が示 競輪場は、全国的なしたことに、粒谷友示 委員（自民党改革）が 車券の売り上げの落ちかみついた。「競輪場はもうかるための施設。赤字になり、税金をつぎ込んでまでやる事業じゃない」

存続について「早期に結論を」と迫った同委員の真意は、仮に県 当たりの購買単価の落

ファン高齢化／不景気



2年連続で赤字となった県営競輪場＝奈良市秋篠町

ち込みがあるといい、21年度は全国48競輪場の4分の1が赤字を計上した。

奈良競輪は昭和25年開業。平成21年までの一般会計への繰り入れ総額は約320億円。

県会一部で廃止論も

売り上げのピークは平成3年度で、同年度には22億円が県の歳入となっている。

一方で、平成12、13年には赤字経営となり、2年連続の赤字は今回で2度目。要因には、売り上げの9割以上を占める車券販売が落ち込む中で、払戻金

年度11万3583人など、緩やかながら減少傾向にあり、大型レースでやや人気を持ち直すこともあるものの、簡単に起死回生とはいかないようだ。

県は「仮に廃止となつた場合、場内で働く総勢300人もの従業員やアルバイトなどの

や他の車券場への手数料支払いなど場外経費、選手賞金の支払い金や財団法人JKAなど関係団体への交付金がかさんだことなどが挙がる。

赤字幅も21年度の2500万円が、22年度は大型レースの予想以上の不振などで1億円超となる見込み。

奈良競輪では年間58レースが行われているが、入場者数も19年度12万1829人▽21

雇用問題にもなる。過去にも2年連続赤字になったこともあり、黒字転換の可能性もある。現在、国（経済産業省）で関係団体の再編など、制度設計の改革検討を進めており、

「動向を見守りたい」と慎重。3月11日の東日本大震災で一斉にストップした競輪が、新年度再開でやや持ち直し感も出ているという中、推移を見極めるとしている。

一それ用意した。岩手県（一）さんや緒方惟之後一援金1100万円を直